

# 交換留学報告書

\* この報告書に記載される内容は多文化社会学部のウェブサイト等に記載いたしますので、予めご了承ください。

氏名	大西 健太郎	学年(渡航時)	3年
派遣先大学	山東大学		
国・地域	中国・山東省済南市		
派遣期間	2024 年 9 月 ~ 2025 年 7 月		

## 履修科目

1 学期目	
履修科目	授業内容
中文精读 Chinese Intensive Reading	中国語の文法や単語を軸に、リーディング力のアップ。
中文视听说 Chinese Audio-Visual & Speaking	中国関連のトピックで、見る聞く話す練習。
中文读写 Chinese Reading & Writing	中国語作文の基本と、文章構成のポイント確認。
2 学期目	
履修科目	授業内容
政治経済学 Political Economy (大 1・経済学院)	中国式の発展モデルや、社会主義市場経済の特徴について。特に、計画経済と市場経済を融合させた独自の制度や、経済発展を支えた政策の歴史的背景、そして中国がどのように現代のグローバル経済の中で成長してきたのか。
当代经济 Contemporary Chinese Economy (大 2・経済学院)	現代中国経済の特徴や発展の歴史、現状の課題について。不動産バブルや地方政府・国有企業の役割、中央政府と地方政府の関係に注目。複雑な経済構造と今後の課題について多角的に。
跨境电商 Cross-border E-commerce (大 3・経済学院)	国境を越えた電子商取引(EC)の仕組みや現状、実際のビジネス運営について。アリババや eBay などのプラットフォームを実際に活用し、越境 EC の実務を体験。
法経済学 Law and Economics (大 4・経済学院)	法学と経済学の両面から、現代社会で発生している様々な問題への解決方法を考える。制度や法律が人々の経済行動にどのように影響を与えるのか、逆に経済活動が法制度にどのような変化をもたらすのかを多角的に。
新闻听说 Chinese News Listening and Speaking (大 2・国際教育学院)	世界のニュースを中国語で集め、要点を整理。プレゼンテーションやディスカッションも行き、最後は各自が関心のあるテーマで小規模な研究発表を行った。

**注意!**

**語学だけの履修または語学が主となる履修登録は不可**

## 留学レポート(1,500字以上)

### 勉強面

当初の計画通り、留学 1 学期目は中国語の習得に専念し、2 学期目からは中国語で専門科目を学んだ。1 学期目は留学生向けの中国語クラスに毎日参加し、HSK6 級取得を目指すレベルのクラスで学習。リーディングとリスニングは比較的スムーズに進んだものの、ライティングとスピーキングでは苦戦し、辛い時期も経験した。しかし、ヨーロッパからアフリカまで多様なバックグラウンドを持つ学生たちと共に中国語学習に励む中で、多くの刺激を受け、交流を深められたことは大きな収穫だった。

2 学期目は、主に経済学院の授業を履修した。語学留学生という立場上、教授との交渉が必要だったが、最終的に経済学院の 4 科目を履修できた。加えて、国際教育学院の科目も 1 つ履修し、プレゼンテーションを通じて世界の時事問題に触れる機会を得た。

中国語のレベル以上に、中国の政治や経済に関する事前知識の不足に直面し、授業内容の理解に苦しむこともあった。授業はかなりのスピードで進むが、指定された教科書を授業の前後で読み込むことで、なんとかついていくことができた。日本の授業との大きな違いは、先生が問いかけるとすぐに多くの学生が手を挙げ、積極的に相互コミュニケーションを取りながら授業が進んでいく点だ。

「跨境电商(越境 EC)」の授業では、前半の座学の後、実際にプラットフォームを用いて Alibaba や eBay での出品から発送までの流れを実践的に学んだ。中国語での説明で不明な点があっても、周りの学生が助けてくれ、実践的な知識を深めることができた。「政治経済」の授業では、最終授業で 30 分ほどの時間を使い、日本の経済についてプレゼンテーションを行った。特に日本の EV 産業について話すと、トヨタや日産について多くの質問が寄せられ、興味深く意見交換ができた。

総じて、授業は決して簡単なものではなかったが、最終的にはレポート作成と試験を終えることができた。「中国留学でしかできないこと」をテーマに、この 1 年間で走り抜くことができた実感している。

### キャンパスライフ

キャンパスライフでは、パワーリフティングと野球に力を入れた。学内と学外のジムに通うことで多くのコミュニティを形成し、現地の学生と活発に交流を深めた。学外のジムでは、社会人の方々とトレーニングを共にする機会もあり、中国社会の現状について生の声を聞くことができた。日本であれば「ブラック」と称されるような環境にしながら、朝 6 時半からトレーニングに励む彼らの姿を見て、広い視野を持つことの重要性を改めて感じた。

野球では、初心者が多いチームだったため、基礎から共に体を動かし、指導にあたった。特に、日本語でも初心者に教えるのが難しい「タッチアップ」の概念を中国語で説明することには大変苦労した。5 月には山東省威海で開催された大会に参加し、チームの 3 位入賞に大きく貢献できた。このチームは毎年試合があるため、留学後も積極的に関わっていきたくて考えている。

### 就職活動と課外活動

3 年生の後期から 1 年間の留学だったが、休学はせずに 4 年での卒業を目指してオンライン中心で就活を進めていた。中国のネットワーク制限で一部の Web テストが受けられなかったり、電波が不安定で面接日程を調整してもらったこともあり、企業側にはかなり柔軟に対応してもらった。基本的には対面面接を重視する企業が多かったが、最終面接だけ対面に切り替えてもらえるケースもあったし、オンラインで最終面接まで進めてくれる企業もあった。複数の企業から内定をもらい、最終的には一番自分に合うと感じた会社に決めた。結果として、最終面接のために 3 回帰国し、すべて内々定をもらったが、3 度目の帰国で内定をもらった会社に入社を決めた。帰国の費用は全て会社が負担してくれた。エントリー前の説明会などで自分が留学中だと事前に伝えておいたことで、選考でも柔軟に対応してもらえたのだと思う。

中国留学中ということもあり、面接では経済や現地の状況について質問されることが多くあった。授業で経済を勉強していたこともあり、自身の視点から中国について語れたのは、大きな強みになったと感じている。

また、日本人会関連のイベントにも積極的に参加させてもらった。特に、イオンモールで複数回開催されたイベントは印象に残っている。交流イベントは通常、利益よりも楽しさや交流がメインとなるが、イオンモールでのイベント

ということもあり、動員数や SNS でのシェア数など、さまざまな視点からイベントを企画する貴重な機会を得られた。これから留学を考えている人には、ぜひ現地の日本人会に積極的に参加することをおすすめする。学生は少なく、駐在員などの社会人がほとんどなので、就職活動のことや駐在員としての仕事について、解像度高く教えてもらうことができる。

総じて、この中国留学は私を大きく成長させてくれた。大学で長崎に進学し中国に関わるようになり、気づけば 1 年間中国で暮らしていた。就職後も中国とは引き続き関わるため、これからもグローバル人材として走り続けていきたい。

留学中の写真(5 枚程度) ※写真のキャプションも入れること



2024 年 11 月  
山東省、孔子の地元曲阜市・孔子博物館にて  
山東省は孔子の教えを深く受け継いでいる



2024 年 12 月  
山東省淄博市  
留学中は、山東省内をはじめ、様々な地域を訪れた



2025年4月  
 山東省青島市・イオンモール青島西海岸新区  
 日中交流イベントに参加



25年5月  
 山東省威海市・威海藍鯨棒球場  
 山東大学野球部コーチ兼選手。4番キャッチャー。



2025年5月  
 山東省青島市・青島西海岸鉄館  
 パワーリフティング大会参加  
 スクワット第1、2試技失敗、第3試技200kg成功